

住民のための の市政を！！

ごうつ民報

日本共産党江津市委員会
電話 52-2633
FAX 52-7244
NO. 2410
2020年7月26日



川越での聴き取り

国・県への被災者支援充実の要請に向けて 大雨災害の現地調査を実施

20・21日、豪雨災害の被災地を日本共産党の大半よしのぶ前衆議院議員・むこせ慎一衆議院議員2区予定候補・尾村としなり県議・大國陽介県議と党市議団が調査しました。

被災地の声を 被災者支援に活かす

今回の調査では、桜江町の川越・小田・今田や松川町・川平町に入り、被災者からの聴き取りを行いました。

今回の災害で一番大きな被害を受けた桜江町川越では、立て続けに被害にあった。堤防の完成を30年以上待っている「

せつかく直した家がまた浸かった。こんな環境では、いずれ人が住まなくなる」と、防災に対する

大雨による浸水被害

地区	地域	住家の被害		非住家の被害	計
		床上浸水	床下浸水		
松川	上河戸	0	1	1	2
	下河戸	0	1	1	2
	長良	1	1	0	2
川平		1	1	0	2
川戸	後山中	1	0	1	2
	小田	5	5	7	17
	月の夜	1	0	1	2
谷住郷		0	0	3	3
市山	今田	0	0	3	3
川越	渡田	7	5	3	15
	田津	10	4	1	15
	上大貫	9	3	1	13
	下大貫	1	5	3	9
合計		36	26	25	87

7月17日15時時点で市が把握している状況です。

る行政の取り組みの遅れを指摘する声が多くありました。

そのほかにも、▼大型土嚢を設置し、災害時には水の流入を防ぐ緊急対応を求める声、▼無堤防地区からの移転への支援を求める声、▼事業所が被災したことで、仕事に遅れがでることへの懸念の声がありました。

被災者支援充実 求めて国・県へ

21日には山下修市長との懇談も行った。その際には坪内涼二県議も同席しました。



山下市長は「中川地方の二級河川で、江の川が一番治水整備が遅れている。国として治水予算を確保し、堤防や宅地のかさ上げなど、防災事業を進めてもらいたい」と述べた。

今後の防災対策では、堤防やかさ上げだけではない、安全な場所への移転補償を行う制度も必要」と述べた。

大平前衆議院議員は、党国会議員団の論戦により、災害救助法での住宅の応急修理への支援が充実したことに触れ、さらに実態に見合った支援となるよう求めていきたいと述べた。

住民にメリットはあるのか？ 松川町上津井・桜江町谷住郷に 全長160mの風力発電設置計画

計画はJR東日本の グループ会社

江津市内東部の山間部へ、大型風力発電施設を設置する計画が進められようとしています。

計画はJR東日本エネルギー開発株式会社（本社・東京）が進めており、松川町上津井や桜江町谷住郷・長戸路、さらには大田市・川本町にまたがる地域へ、全長160mブレード部分は60mの風車を10基程度設置するものです。今年12月には設置申請し、2027年には運用を始めるとされています。規模は、すでに市内で稼働している風力発電より、大型のものとなります。

住民にメリットある？
6月24日の市議会情報交換会で、市執行部は設置場所は確定しておらず、必ず設置されるとは決まっていない。住民

の意見聴取に努め、大きな反対がなければ」と説明。しかし、7月1日から市役所本庁や桜江支所の縦覧が行われ、31日を以て計画への意見書受け付けも始まっています。市内では既存の風力発電により、騒音・振動などの問題が生じており、住民にメリットもないまま、デメリットのみが押し付けられています。日本共産党は再生可能エネルギーによる脱原発の推進を政策として掲げていますが、住民の声が反映されない計画には反対します。

悩み・困りごと
ご相談ください

森川よしひで
090-7379-1554
多田伸治
090-6014-2259

農業委員と農地利用最適化推進委員の新体制

7月20日、2020年度第5回の農業委員会総会が開かれ、市長より11人の農業委員が辞令交付され、農業委員会会長に佐々木英夫氏、副会長に山田博氏が選出されました（留任）。また、11人の農地利用最適化推進委員には、農業委員会会長から辞令が交付されました。

豪雨とコロナの影響

辞令交付式のあいさつで山下市長は、7月13・14日の豪雨による被害について、浜原ダムの放流は、2018年の際は最大で毎秒7

260tだったが、今回は6871tで約400t少なかった。そのため、最高水位は2年前より約1m低く、浸水家は前回の約1/4となった。江津市は災害救助法の指定を受けることになるが、被災者生活支

援法については、指定の基準に達していない。また、九州や中部地方などに被害を及ぼした線状降水帯による一連の被害として激甚災害に指定されれば、農家災害の支援率が高まるが、被害額は前回の1/10を下回る見込み」と報告。また、新型コロナウイルスについては、市民の生活は少しづつ元に戻りつつあるが、東京周辺で感染が再度拡大しており、全国への波及の可能性により、市内の飲食業などへ影響が出ていることが説明されました。

豪雨災害での農業の被害状況

豪雨災害による農業への直接の被害は冠水が183haにおよび、農作物では桑・ゴボウ・大豆・カボチャなど2900万円、農機具は白ネギ皮むき機・運搬車な

春以降、市内でも営業やイベントの自粛・中止があり、道の駅での売り上げや飲食業・宿泊業さらには給食などでの消費減で、市内産の農産物への影響が懸念されます。

災害ボランティアに参加して

7月13・14日の豪雨災害では、幸いにも江津市内に人的被害はなかったものの、床上浸水36棟、床下浸水26棟の被害がありました。2年前の西日本豪雨では床上浸水167棟、床下浸水52棟。このほかに非住家でも25棟が浸水し、道路では55カ所、河川では5カ所、農業関係では農地の冠水により農作物の収穫に影響が出るほか、農機具も被害にあっています。

町川越のボランティアセンターへ行くと、朝9時の時点で私たちを含めて4組9人が駆け付けていました。社協のスタッフの方に割り振られて私たちがうかがったのは、床上1・2mまで浸水したお宅でした。2年

前にも床上浸水の被害にあっただけで、台所や座板・床を改修し、家電製品も新たに購入していました。今回再び浸水してしまいました。そのお宅で、ゴミ出し、浸水の跡の残る窓・網戸や風呂の掃除、床や押し入れ

に作業が進み、午後3時には終了しました。作業終了の報告の際、社協スタッフの方にかがうと、ボランティアの応募はあるものの、被災された方からの派遣要請が少ないので、簡単な作業でもボランティアは利用できるの、できるだけ活用してほしいとのことでした。

このような中で、18日から江津市社会福祉協議会（社協）により、災害ボランティアの募集が始まりました。ただ、今回の募集は

の雑巾がけ、取り外せるドアや収納の水洗い、家屋周辺に堆積した土砂やゴミを水でそそぐなど、後片付けをお手伝いしました。時折、強い雨も降り蒸し暑い中で、度々充実を感ずる必要性を改めて感じました。

今回、災害ボランティアに参加して、繰り返し災害に対して早期の堤防設置に加え、移転補償による防災への取り組みなど、国の制度充実を感ずる必要性を改めて感じました。

森川よしひで

ど400万円となっており、波積町で農道が1カ所壊れています。7月20日時点）。

お悔やみ申しあげます
敬称略

18日 山藤樹三 波子町
19日 坂部敏子 江津町
20日 本孝子 江津町

農地利用最適化推進委員

推薦・応募	新・再	氏名	年齢	住所
個人推薦	新	盆子原温	70	有福温泉町
個人推薦	再	井上清澄	74	桜江町
個人推薦	再	階本誠一	74	桜江町
応募	再	崎谷靖徳	67	桜江町
応募	新	野田英夫	68	跡市町
応募	再	河村博幸	76	都治町
応募	新	佐々木建也	73	松川町
応募	再	湯浅憲昭	71	桜江町
応募	再	仲津和法	71	都野津町
応募	再	壺岐和功	72	波積町
応募	再	野村耕平	73	渡津町

農業委員

推薦・応募	新・再	氏名	年齢	住所
個人推薦	再	深野政勝	77	二宮町
個人推薦	再	山田博	77	桜江町
個人推薦	再	山本秀彦	73	桜江町
個人推薦	再	大村理之	72	波子町
団体推薦	再	佐々木英夫	70	川平町
団体推薦	再	田代和秋	68	桜江町
応募	再	柳原良雄	67	波積町
応募	再	原田和徳	62	和木町
応募	再	二本木俊二	63	松川町
応募	再	和田幸子	68	千田町
応募	再	藤井孝子	49	後地町